

Reborn

Vol.12 2020 新春号

【特集】益城病院トータルケア体系

社会医療法人ましき会

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

Take Free

ご自由にお持ちください

表紙写真：「迎春の花」（東京国立博物館／華道家 犬飼翠雪）

Contents

地域に開かれた医療を目指して、70年目の新たな夜明け	1
【特集】 益城病院トータルケア体系	2
一人ひとりに寄り添う相談業務	4
トータルケアの起点としての医療連携・相談室	5
その人らしさと自立を支える入院	6
退院後の社会復帰に向けた、入院中からの取り組み	7
地域で暮らしながら働く患者さんを支援する	8
第9回院内学会 ～みんなで創ろう益城病院 PLAN2020の先にあるもの～	9
研修一覧	10
夕涼み祭り／リレーコラム	11
職場インフォメーション／職員往来／ 病院行事／実習生受け入れ／診療実績	12
Information・編集後記	13

基本理念

OUR PHILOSOPHY

社会医療法人ましき会は、患者さんとそのご家族に対し、
最善のプロフェッショナルサービスを提供し、
精神科医療の責任ある担い手として、
地域の医療・福祉・文化に貢献します。

患者さんの権利と義務

PATIENT RIGHTS AND OBLIGATIONS

1. すべての個人情報を守られます。
2. 医療上の情報について十分な説明を受けることができます。
3. 医療行為について自ら選択することができます。
4. ご自身の負担で、他の医療機関の医師の意見を聞くことができます(セカンドオピニオン)。
5. いかなる場合も人道的に尊重され、平等な医療を受けることができます。
6. 適切な医療のために必要な情報を伝え、主体的に治療に参加してください。
7. 病状の改善及び共同生活を維持するため、規則や指示を守ってください。
8. 医療にかかった費用を支払う義務があります。

職員の倫理

ETHICS OF STAFF

1. 益城病院の基本理念・行動指針を自己の行動規範とします。
2. 医の倫理を踏まえ、患者さんの権利を尊重し、希望のもてる医療を行います。
3. 仕事に誇りをもち、全ての患者さんに公平・平等な医療を行います。
4. 質の高い医療を提供するため、自己啓発に努め、自身の健康増進に努めます。
5. 温和で謙虚、協調と礼節を重んじ、患者さんや地域からの信頼を得るよう努めます。

5つの誓い

FIVE OATH

1. 私達は、精神科医療を通じて社会貢献に努め、社会医療法人としての公益的使命を果たします。
2. 私達は、こころを病む人々に対し、尊厳を損なうことなく、心身の健康づくりに努めます。
3. 私達は、こころを病む人々が、地域で安心して暮らせる環境づくりに努めます。
4. 私達は、お互いの立場を尊重し、働きがいのある職場づくりに努めます。
5. 私達は、医療の質を高めるため、日々、自己研鑽に努めます。

地域に開かれた医療を目指して、70年目の新たな夜明け

あけましておめでとうございます。

令和という新しい時代に、職員の皆様と共に新年を迎えることができ、喜びもひとしおです。

振り返ると、この3年半余りは公私共に激動の日々でしたが、私共は、心をひとつにして病院の再出発を目指してまいりました。おかげさまで、緑に包まれ、地域に開かれた益城病院を再建することができました。ご協力いただいた多くの方々に心からお礼申し上げます。

療養中の患者さんも徐々に新しい環境に馴染んでこられていますし、広い庭園の樹々も根をおろしつつあります。最近では、日没とともに、院庭のあちこちでイルミネーションが瞬いております。夜のともし火は地域の方々にも温かいエールを送っていることと思います。ささやかな努力が、少しずつ実りつつあります。

私は今、手元にある20年前の「益城病院創立50周年記念誌」を開いております。

創立以来の歩みや変革を辿りながら、懐かしい先生方や職員の面影など、歳月の流れをしみじ

社会医療法人ましき会 会長 犬飼 由貴子



みと感じます。そして、益城病院は今年、創立70周年を迎えます。地域に開かれた優れた医療を目指して、これからも歩みたいと思います。

本年も皆様にとって幸せな年になりますよう、心からお祈りいたします。

2020年 元旦



東京国立博物館の生け花

益城病院トータルケア体系

益城病院のトータルケア体系は、医療と福祉と介護の包括的な支援を目指しています。
患者さんにとって“今、必要な支援はなんなのか”多くのスタッフが連携し、チームワークを発揮し、総合的な医療福祉サービスを提供するものです。
そして病気や障がいをもつ方も、健常な方も、心身ともにすこやかに暮らしていける、よりよい地域づくりへ向け活動しています。



デイケア送迎

精神科デイケア
認知症デイケア



ひろやす
クリニック

外来



うつ・アルコール依存症・認知症
もの忘れ・統合失調症・こころに
関わる問題などを診療

相談



初診から通院、
まで安心して療
養よう相談に対応



住み慣れ
自分らしく

入院



一人ひとりの症状に応じた
療養環境を提供

在宅



家庭や地域で
生活出来る



退院前訪問看護

※この益城病院トータルケア体系図は概念図です。図示した以外にも、多様な取り組みやサービス機能があります。

窓口



入院、退院後
養・生活できる



たまちで
暮らすために



支援

自分らしい
ようサポート

就労支援



就労訓練を通じて社会復帰
社会参加をサポート

住居・施設

退院後の住まい支援



パン工房まりも



風のテラス



宿泊型自立訓練
事業所コスモ



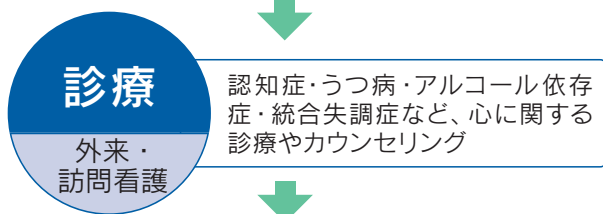
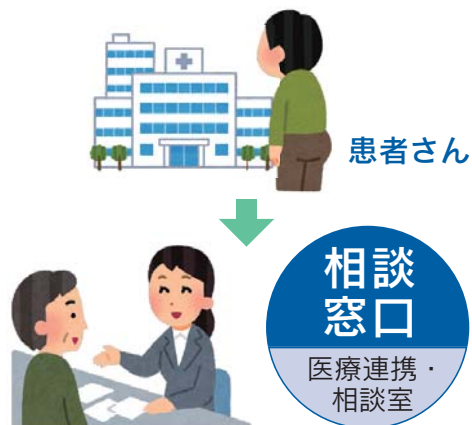
特養花へんろ



高齢者グループ
ホームふるさと

一人ひとりに寄り添う相談業務

益城病院では、外来受診、入院、退院後の社会復帰、就労など、患者さんの置かれた環境や症状の変化に応じて、その都度、専門のスタッフが相談に応じています。患者さんが、治療を継続しながら地域のなかで自分らしく暮らすための医療支援や、就労のための支援、障害・福祉サービス、介護サービスなど、一人ひとりに最適なサポート体制を目指しています。



入院

ユニットケアにより個々の症状に最適な入院環境を提供

病棟機能

・精神科救急・精神療養・認知症治療

入院治療

・精神療法・薬物療法・アルコール療法
・理学療法・作業療法・日常生活技能訓練
・退院前訪問看護 など

住居・施設

退院後の住まいを提供し、生活をサポート

住居

・共同住宅iハウス

訓練施設

・宿泊型自立訓練事業所「コスモ」

在宅支援

家庭や地域での自分らしい生活をサポート

在宅サポート

・訪問看護ステーション

通院プログラム

・精神科デイケア・ショートケア・認知症デイケア
・断酒会・スポーツ療法

相談

・居宅介護支援センター
・指定相談支援事業所・地域活動支援センター「アントニオ」
・認知症疾患医療センター

就労支援

就労訓練を通じて社会復帰・社会参加をサポート

就労継続支援B型事業所「ましきの風」

・パン工房「まりも」
・清掃、洗濯作業「クリーンサム」
・軽作業「あひるのしっぽ」
・軽食、喫茶「風のテラス」

高齢者施設

介護施設

・高齢者グループホーム「ふるさと」
・特別養護老人ホーム「花へんろ」

福祉施設

・養護老人ホーム「花へんろ」

トータルケアの起点としての医療連携・相談室

診療支援科 科長 古閑 博隆

医療連携・相談室（以下、連携室）は、在宅生活を送る患者さんやそのご家族が、地域の中で適切な医療・福祉サービスを受けられるようにすること、また、安心・安全な生活を送ることができるように、地域や関係機関と連携していくことを目的としています。

連携室には様々な相談が寄せられますが、まず、病院の窓口として、初めての受診を希望される方への相談対応を行います。いま抱えている悩みだけでなく、受診の目的、今後の希望などを伺い、当院の外来診療や関連部署・施設、または地域の社会資源や

サービスにつなげていく必要性等を判断していきます。基本的には、緊急性、重症度などを勘案し、受診やサービスにつなげる時期やタイミングの判断が重要です。相談内容によっては、医師の助言を得ながら、迅速かつ的確な判断が行えるよう努めています。また、関連部署・施設との連携を円滑にするため、それぞれが担っている役割、機能、現状などを把握するとともに、普段からスタッフ間のコミュニケーションを大切にしています。



↑医療連携・相談室は他部署と連携しやすいようにオープンフロアになっている

その人らしさと自立を支える入院

断酒への取り組みと社会復帰を支援する ～アルコールユニット～

当院のアルコール依存症の入院治療には、開放病棟での断酒を目的とした3ヵ月間のアルコールリハビリプログラムがあり、週1回の院内断酒会を中心とした集団療法を行っています。また、月に2回、患者さんの家族を対象とした家族会も開催し、家族への支援も行っています。

患者さんの断酒の動機づけと退院後の回復を目指し、各地域の断酒会と連携し、スタッフと一緒に地域の夜間例会にも継続して参加しています。

患者さんは、性別や年齢、性格によって様々な違いがあるので、個別性を考慮し、入院初期、中期、後期と各ステージに応じた個別面談を実施しています。信頼関係を築いていくには、対話と関わりが大切です。また、外来

A（精神科救急）病棟
ユニットリーダー 看護師 伊津野 智士



↑アルコール断酒会

患者さんの電話相談への対応や通院中断者への働きかけも行っています。社会資源の活用においては、ケースワーカーを中心に多職種と連携し、幅広いサポートを行っています。

患者の目線で症状の安定を目指す ～認知症ユニット～

精神科救急病棟の認知症ユニットでは、入院期間3ヵ月を目標に、集中したケアを行っています。入院から退院まで一人のスタッフが受け持ち、多職種と連携しながら一貫した看護を行います。また、入院中から退院後を見据え、外来や在宅スタッフ、家族とも連携をとりながら包括的に関わりを持つのも当ユニットの特徴。安心して治療できる環境づくりに努め、退院後の在宅生活を共に検討します。家庭的な雰囲気づくりと馴染みの関係づくりを心がけ、小グループで関わることで、患者さんの小さな変化に気づき、症状の改善や安定を目指しています。ADLの保持・改善・回復を目標に、作業療法以外にも体操や園芸、パズル等を日課とし、好きな趣味活動へ導き、患者さんの能力や好みに合わせた活

A（精神科救急）病棟
ユニットリーダー 看護師 菊川 美由紀



↑患者さんとの院庭散歩風景

動も行っています。

患者さんの目線に立ち、その人らしい日常生活が送れるよう常に寄り添い、支援していくことを大切にしています。

退院後の社会復帰に向けた、入院中からの取り組み

在宅支援部 部長 増田 なみ子

当院では、患者さんの社会復帰における支援についても、トータルケアの一環として考えています。治療の継続が必要な方には医療系サービスを、就労や地域参加が必要ななら障害・福祉系サービスを、介護が必要ななら介護系サービスを…と、利用者の置かれた状況や症状により、利用できる在宅支援体制を充実させています。

患者さんの退院後の支援のあり方については、入院時から多職種によるカンファレンスを実施して情報共有や連携を図り、社会復帰に向けた検討を行います。また、病棟や各施設のPSWなどが参加して地域移行支援対策会議を行い、退院に向けての支援強化や連携・調整も行います。さらに、患者さん自身も社会資源について学び、希望するサービスの見学や就労体験・宿泊体験などを行いながら、



↑退院患者さんへ声かけする看護師

退院への準備を進めていきます。

退院が近くなると、環境調整や患者さんと家族の不安軽減などを目的に、病棟の看護師と在宅支援部門の看護師が協働で退院前訪問看護を行い、在宅への移行に繋がります。今後も、患者さんの社会復帰がスムーズに進むよう、連携や支援体制の強化に努めます。



↑退院に向けた多職種スタッフによるカンファレンス

地域で暮らしながら働く患者さんを支援する

在宅支援部 副部長 園田 烈

在宅支援部では、患者さんの自立に向け、在宅で就労しながら通院を続けられるようなあり方を早くから取り入れており、社会復帰のための様々な支援事業を行っています。そのために用意された各共同住居では、複数のメンバーが生活しています。日々、様々な問題が発生しますが、在宅部門の職員による夜間訪問や訪問看護などを行って相談に乗ったり、一人ひとりに寄り添うことにより、症状の緩和、就労の継続が可能になっています。また、賃金を得ることはメンバーの意欲につながり、支援事業所との関係も良好です。

就労支援事業の内容は、パン工房「まりも」、

軽食・喫茶「風のテラス」、洗濯・清掃「クリーンサム」、野菜の仕分けなどの軽作業「あひるのしっぽ」があり、社会復帰・社会参加を目的に、各々がやりたい事、できる事を自ら選び、就労訓練作業に参加しています。

一例として、デイケアのリワークプログラムに参加した方が、院内の食器洗浄への就労を希望、勤務時間を段階的に増やしながらステップアップし、最終的には一般就労に移行したこともあります。工賃日を楽しみに頑張るメンバーもあり、今後も、参加を希望する人の思いに応えられるよう、就労支援の幅を広げて取り組んでいきます。



↑洗濯・清掃「クリーンサム」



↑パン工房「まりも」



↑軽食・喫茶「風のテラス」



↑軽作業「あひるのしっぽ」

これからの精神科医療を見つめて、第9回院内学会開催

C（精神療養）病棟 副病棟長 山下 雄三
研修委員会 委員長

新病院移転後初の院内学会が開催され、理事長から、これからの当院のビジョンについて講演がありました。2020年はゴールではなく、我々が目指すものがその先に続いていくということを再認識しました。なかでも、社会情勢・診療報酬改定など様々な環境の変化を想定し、スタッフ一人ひとりが経営的視点を持つことの重要性は大きな発見でした。

映画上映と意見交換会では、倉田哲也さんの実体験から滲み出た「周りとの違いは恥ではない」「不自由であっても不幸ではない」などの言葉の1つ1つが心に響き、いまだに余韻を残しています。

研究発表では、断酒継続支援やCVPPP*トレーニング、箱庭療法といった取り組みに、会場全体が興味深く聞き入りました。退院支援については、病棟とコスモ、それぞれの視点からの症例報告が行われ、部署を越えたシームレスな関わりが重要であると改めて感じ、また、就労支援に関しては、



↑犬飼理事長の講演をはじめ学会の様子はサテライト中継を行い各部署で視聴可能とした

スタッフの心意気、患者への想いにあふれた発表となり、会場全体が温かい雰囲気になりました。

結果も大切ですが、研修委員としては、今回の学会開催に関わった一人ひとりにとって、その課程にこそ最も重要な意義があったと感じています。有り難うございました。

*CVPPP（包括的暴力防止プログラム）病状により不穏・興奮状態にある患者さんに対し、尊厳を守り安全を確保しながら、必要な治療や看護を提供することを目指したプログラム

第9回 院内学会プログラム

- ◆講演◆ 理事長 犬飼 邦明
「これからの精神科医療 ～益城病院が目指すこと～」
- ◆1群◆ 認知症デイケア 作業療法士 神野 裕一
「趣味活動を再開することで意欲向上と対人関係が改善した事例」
 - ・C病棟 准看護師 中村 真由美
「C病棟における退院支援」
 - ・宿泊型自立訓練事業所コスモ 精神保健福祉士 清田 萌子
「グループ活動を通して入院からコスモ入所へ繋がった1症例」
- ◆特別上映・意見交換会◆
 - ・映画：「もっこす元気な愛」
 - ・意見交換会
社会福祉法人くまもと障害者労働センター代表 倉田 哲也さん
- ◆2群◆
 - ・A病棟 看護師 伊津野 智士「断酒継続への支援」
 - ・B病棟 准看護師 林 大稀
「病棟新人スタッフを対象としたCVPPPトレーニングを試みて」
 - ・パン工房まりも 精神保健福祉士 宗雲 美樹
「就労に追いながら将来の目標を決めたいです」
- ◆3群◆
 - ・D病棟 准看護師 関本 悠喜
「個別ケアにおける排泄誘導の取り組み」
 - ・診療支援部 公認心理師 小松 哉子
「希死念慮を訴え入院した男子高校生の事例報告」
 - ・法人事務局 総務課長 佐伯 貴志
「10年、20年後をイメージする」



↑講師の倉田哲也さん（左）と松永院長



↑活発な質疑応答が展開された

研

修

と

院

内

勉

強

会

院 内

10月	9日	経口糖尿病治療薬についての勉強会
	24,25,28,29日	行動制限最小化委員会・個人情報保護委員会合同研修会
	25日	認知症対応強化検討会主催勉強会
	30日	熊本県医療ソーシャルワーカー・益城ブロック研修会
11月	5日	AEDを利用したBLS研修
	11,25日	新人6ヶ月フォローアップ研修
	12日	ライフプランセミナー
	22日	認知症対応強化検討会主催勉強会
12月	26日	在宅支援部勉強会
	9,10日	令和元年度第1回接遇研修（全職員）
	20日	認知症対応強化検討会主催勉強会
	16,19,20,23日	医療安全研修（全職員）
	18日	福祉用具・住宅改修展示車両研修会

院 外

10月	3,4日	第17回認知行動療法研修会（鳥居麻里）
	3日	日本精神科看護協会支部研修会（榮永紘之）
	3日	情報センター相談員研修会（3名）
	4日	精神科病院における安心・安全な医療を提供するための研修（8名）
	6日	熊本アディクションフォーラム（伊津野智士）
	7日	2019年度熊本県新人看護職員研修責任者等研修（山下雄三）
	8日	認知症介護実践者研修（梅田典子）
	10日	介護支援専門員更新研修（2名）
	10日	医療機能評価改善支援セミナー（8名）
	11日	食支援のための新しい口腔ケアの手技を学ぶ研修（2名）
	11日	益城町民生委員会高齢者部会【講演：犬飼邦明】
	12日	令和元年熊本県訪問看護連絡協議会従事者研修（豊永宜子）
	12日	HUG避難所運営ゲーム研修（渡邊史子）
	16日	自立支援協議会定例会及び地域移行研修会（4名）
	17日	食品衛生責任者研修（郷野優子）
	17,18日	日本精神科医学会学術教育研修会（2名）
	17～19日	第27回日本精神科救急学会学術総会（渡邊信夫）
	18日	熊本県相談支援従事者現任研修（2名）
	26日	日本精神科看護協会支部研修会（榮永紘之）
	29日	熊本県精神科病院協会事務長会研修会（3名）
11月	31～11/2	第53回日本てんかん学会学術集会（宮崎知博）
	1日	令和元年度依存症研修会（10名）
	1日	広安小学校講演【講演：松永哲夫】
	3日	NPO法人熊本県断酒友の会第24回阿蘇一泊研修会（荒牧奈菜）
	6日	熊本県精神科病院協会看護部会研修会（4名）
	8日	地域移行支援研修会（山下雄三）
	8日	令和元年度精神障がい者地域移行支援研修会（3名）
	8日	上益城郡地域ケア研修会（福島郁雄）
	9日	第36回熊本精神科リハビリテーション研究会（金子真弓）
	11日	災害時の心構え・外部支援者として受援者としての研修（金子元子）
	12日	益城町介護支援専門員及び介護サービス事業所合同研修会（2名）
	13日	医療安全に関するワークショップ（3名）
	14日	第3回災害復興期のこころのケア研修会（3名）
	14日	第15回九州地区障がい者相談支援事業合同研修会（山迫浩史）
	16日	第35回熊本アルコール関連問題学会（7名）
	16日	高齢者抑制を考える会20周年記念講演会研修（2名）
	16日	日本精神科看護協会三重県支部災害支援研修（金子元子）
	18日	熊本県認知症初期集中支援チーム員向けフォローアップ研修会（吉田忠）
	20日	第57回熊本精神科病院協会コ・メディカル部会研修会（2名）
12月	21日	職場のメンタルヘルス研修会（2名）
	21日	日本精神科看護協会支部研修会（榮永紘之）
	22～24日	日本新薬社内勉強会（松永哲夫）
	24日	子どものための心理的応急処置（PFA）研修（金子元子）
	25日	令和元年度上益城圏域介護保険「主治医研修」（犬飼邦明）
	26日	熊本県障害者虐待防止・権利擁護研修会（2名）
	30日	九州アルコール看護研究会（小田泰徳）
	3,13日	日本精神看護協会第6回支部研修会（榮永紘之）
	4～6日	2019年度第24回精神保健指定医研修会（2名）
	5,6日	令和元年度九州地区障がい者相談支援事業合同研修会（3名）
	7,8日	令和元年度DPA統括者・先遣隊技能医事研修（犬飼邦明）
	7,8日	東海北陸アルコール関連問題学会研修（松永哲夫）
12月	12,13日	第72回九州精神神経学会・第68回九州精神医療学会（犬飼邦明）
	13日	医療安全管理研修会（3名） 医療安全管理対策の基礎研修（3名）
	14日	精神科薬物療法に関する研修会（犬飼邦明）
	21日	第2回看護職員継続教育研修会（山下雄三）
	21,22日	国立長寿医療研究センター主催認知症初期集中支援チーム員研修会（甲斐優希）

※他にも院内外でさまざまな研修・勉強会等に参加しています。

賑やかな笑い声に包まれた、秋の夕涼み祭り



↑たくさんの出店で賑わった



↑藤崎宮秋季例大祭の飾馬による慰問



↑益城子ども劇団ましきずプレイヤーずのみなさん



↑子ども達に大人気のボールすくい

夕涼み祭りが企画され、今回設営の担当になりました。日常の業務とは全く異なった仕事で、何をどうやって取り組んでよいのか、不安やプレッシャーを感じました。しかし、誰もが楽しみにしている祭りなので、担当スタッフ一同、試行錯誤しながら懸命に取り組みました。

祭り当日（2019年9月14日）は大勢の方が

訪れて、予想を遙かに超える人出があり、賑やかな笑い声が響き渡りました。また、お褒めの言葉も頂きました。色々悩みながらの取り組みでしたが、たくさんの方々の支えがあったことが嬉しさにつながりました。終わってみれば感謝ばかりです。この場を借りてお礼申し上げます。

B（精神療養）病棟 准看護師 林 大稀

リレーコラム

No.9

いいね👍
ワークライフバランス

プライベートの充実が仕事の原動力

栄養管理科 栄養士 井上 麻由

私の趣味は、学生の頃をしていたバレーボールです。社会人になり、趣味の時間を持てずにいましたが、益城病院に入職してからは終業後の時間に、またバレーボールができるようになりました。

現在は、男女混合のソフトバレーで、仲間と楽しい時間を過ごしています。プライベートが充実することで、仕事も一層がんばることができ、日々、楽しむことができます。



職場インフォメーション

第7回 法人事務局 総務課 管理

快適な環境づくりを目指して

管理 主任 坂本 英雄

施設管理の業務は、院内の電気・水道・空調等の設備点検やメンテナンスはもとより、院庭管理や送迎業務など多岐にわたります。また、トラブルが起きてても即時対応できるように解決方法や判断が求められるため、幅広く様々なことを把握しておく必要があります。



新しい病院となり、慣れないことが多々ありますが、患者さんやスタッフへ快適な環境を提供できるよう、縁の下の力持ちとして管理スタッフ一丸となって頑張っています。

職員往来

2019年9月2日～2019年11月30日

新しい職場でがんばっています。よろしくお願いします。

- ① 趣味・特技
- ② 志望理由
- ③ ひとこと



スミノ ユミ
住野 友美

2019/9/4(水)

育児室
保育士

- ① 健康番組を見て、試したりすること
- ② 子どもが好きで、院内保育に携わりたと思ったから
- ③ 子ども達と楽しく安全に過ごしていきたいと思ひます。宜しくお願いします。



トヤマ リエ
外山 理恵

2019/9/6(金)

育児室
保育士

- ① 子どもと一緒にスポーツ観戦
- ② 以前働いていて、勤めていただいたから
- ③ 子供達と仲良く過ごしたいと思ひます。宜しくお願いします。



コウノ サトミ
幸野 里美

2019/9/15(日)

育児室
保育士

- ① ランチに出かけること
- ② 前に働いていたため
- ③ 事故がないように気をつけていきたいと思ひます。



オニツカ ユズ
鬼塚 ゆず

2019/10/1(火)

事業部(コスモ)
支援員

- ① 読書(コーヒーとおやつもセットで)
- ② 見学時、お話を聞いて頑張っていたと思ひました。
- ③ 底抜けに明るくて熱いコスモの皆さんのもと、私も一歩ずつ前に進みたいです。

診療実績

単位：人

区 分		9月	10月	11月
外 来	外来患者延人数	2,922	3,097	2,907
	(うち新規患者人数)	50	52	49
	平均外来患者人数	116.9	123.9	126.4
入 院	新入院患者人数	31	35	25
	退院患者人数	32	31	29
	在院患者延人数	6,167	6,416	6,242
	平均入院患者人数	205.56	206.96	208.06
	平均在院日数(単位：日)	195.8	194.4	231.2

実習生受け入れ実績

- 10月 浅香山病院施設見学
- 11月 熊本総合リハビリテーション学院 (作業療法短期実習)
崇城大学薬学部生早期体験学習
JICAマレーシア研修団熊本研修「LEP2.0被災者への心理的ケア」
栄養科退職者会厨房見学
平岡専門学校栄養士課程学生病院見学
- 12月 熊本駅前看護リハビリテーション学院3年OT評価実習
熊本大学病院・早期臨床体験実習
都城自立支援協議会見学
医療法人社団有朋会栗田病院施設見学

2019年10月～12月 病院等行事

11月	11月30日	大規模消防訓練 院内学会
12月	12月13日	クリスマス会
	12月26日	餅つき

Information

お知らせ

地域の先生方へ

患者さんのご紹介をホームページからできるようになりました。

益城病院のトップページの右下にある「医療機関の方へ」をクリックして、「患者さん紹介用送信フォーム」ボタンをクリックすると、紹介情報を入力する画面が表示されます。必要項目を入力の上、送信してください。相談員が確認後、折り返しご連絡します。なお、予約が大変混み合っている場合、すぐに受診できない場合がございますので、ご了承ください。



↑冬の夜を彩る院庭のイルミネーション

編集後記

創立70周年のめでたい年の幕開けです。子の年は繁栄を意味し、期待が膨らみます。昨年末は、院内学会、イルミネーションの点灯式、クリスマス大会、餅つきなど多彩な行事がめじろ押しでした。ここでもワンチームの益城力が発揮されて、新病院で迎える年末年始を、温かいオレンジの灯りのベールが包みこむようでした。恒例の年頭式典、周年行事が次々と予定され、前年の猛進から地域全体の繁栄へとつなぐ希望の年となるよう、一同で懸命に取り組んで参ります。温かいご支援をお願いいたします。

(理事 田中 洋子)

社会医療法人ましき会

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

精神科・心療内科・小児科・歯科

〒861-2232

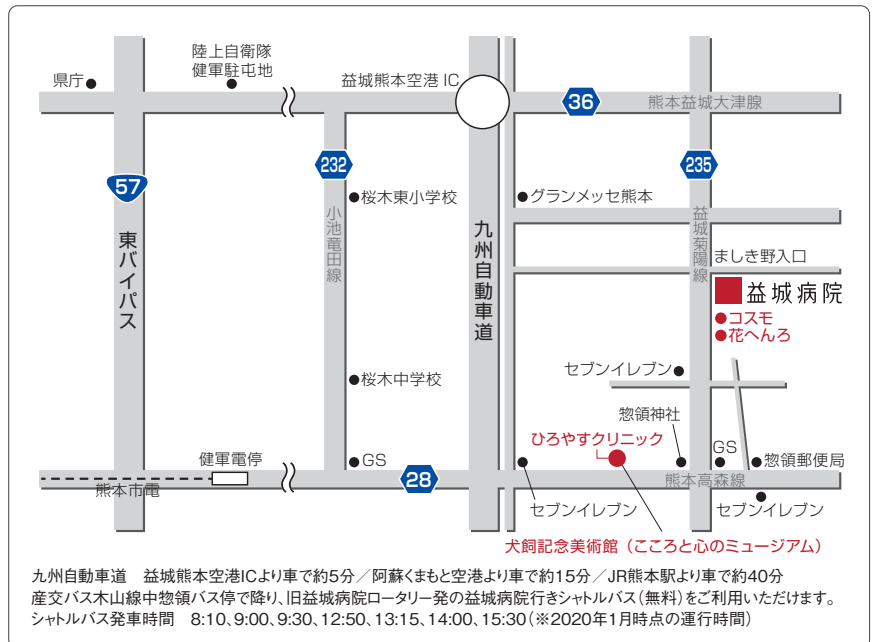
熊本県上益城郡益城町馬水123



096-286-3611

外来お電話受付時間(月曜～金曜)

午前 9:00~12:00 午後 13:30~17:00



付属施設

- 熊本県認知症疾患医療センター
 - 高齢者グループホーム「ふるさと」
 - 地域活動支援センター「アントニオ」
指定相談支援事業所「アントニオ」
 - 訪問看護ステーション
 - 居宅介護支援センター
 - 就労継続支援B型事業所「ましきの風」
パン工房「まりも」、清掃・洗濯作業「クリーンサム」
軽作業「あひるのしっぽ」、軽食・喫茶「風のテラス」
 - 宿泊型自立訓練事業所「コスモ」
 - 育児室「あんふあん」
 - 犬飼記念美術館
「こころと心のミュージアム」

関連施設

- | | | |
|--|--|---|
| <p>■ひろやすクリニック 内科・消化器科・循環器科</p> <p>熊本県上益城郡益城町惣領1530</p> <p>TEL 096-286-3636</p> | <p>■特別養護老人ホーム 花へんろ</p> <p>熊本県上益城郡益城町惣領1670</p> <p>TEL 096-287-8706</p> | <p>■養護老人ホームAKAI花へんろ</p> <p>熊本県上益城郡益城町赤井1800</p> <p>TEL 096-286-2075</p> |
|--|--|---|

表紙タイトル：Reborn(リボン) 人と人を結ぶ、こころと心を結ぶ。

表紙撮影：水野ひろし 編集：堀地久美子 発行：社会医療法人ましき会 益城病院 広報委員会 発行日：2020年1月20日



益城病院

檢索